

研究名

ポリファーマシー解消に向けた持参薬の実態調査～薬剤総合評価調整加算算定状況との比較～

1. 研究の対象

2024年1月から2024年3月に、当院に入院し、持参薬鑑別を実施した患者 2742名

2024年1月から2024年3月に、当院に入院し、薬剤総合評価調整加算が算定された 84名

2. 研究目的・方法

超高齢社会の日本では多剤併用に陥りやすい状況にあり、ポリファーマシーが問題視されているにもかかわらず、解消に向けた対策が不十分な状況にあります。中でも6剤以上の併用で薬物有害事象の発生が高まることが知られています。高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015において示された「特に慎重な投与を要する薬物リスト」を参考に、今回、済生会横浜市南部病院における持参薬鑑別実施内容および薬剤総合評価調整加算算定状況を調査することで、ポリファーマシーの解消に繋がることを目的として調査したいと思います。

調査内容は、2024年1月1日～2024年3月31日の3ヶ月間に持参薬鑑別を実施した入院患者 2742件の、年齢、診療科、持参薬剤数、退院時薬剤数、減薬内容等を調査し、考察いたします。また、2024年1月1日～2024年3月31日の3ヶ月間に薬剤総合評価調整加算が算定された患者 84名についても同様に調査し、考察いたします。

3. 研究に用いる情報の種類

電子カルテ情報（年齢、性別、身長、体重、疾患名、検査結果、処方歴等）その過程において氏名、住所など、患者さん個人の特定が可能な情報は排除いたします。

4. 外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

5. 研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 福田 史歩

6. お問い合わせ

本研究にご質問、または臨床研究の参加を希望されない場合は下記連絡先までお問合せください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 福田 史歩